

長野県松本市

*KYUSYATEKIJONISI*

# 旧射的場西遺跡 IV

——緊急発掘調査報告書——

1999.3

松本市教育委員会

# 例 言

1. 本書は旧射的場西遺跡の第4次緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は田辺製薬株式会社による事務所建設事業に伴う緊急発掘調査として実施した。発掘調査および報告書の作成は同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆は、I-2：事務局、第5表：直井雅尚、田多井用章、その他を太田圭郁が行った。
4. 本書作成にあたっての作業分担は以下の通りである。  
遺物洗浄：百瀬二三子  
遺物復元・保存処理：五十嵐周子、内沢紀代子、洞沢文江  
図面整理：石合英子、林 和子  
遺物実測：竹平悦子、洞沢文江、松尾明恵、横山真理  
トレース・版組：田多井用章、窪田瑞恵、洞沢文江、林 和子、太田圭郁  
写真撮影：荒木 龍、太田圭郁（遺構写真）、横山和明（遺物写真）  
編 集：太田圭郁
5. 本書において用いた遺構の略称は以下の通りである。  
竪穴住居址：住、土坑：土、ピット：P
6. 図中において用いた方位記号はすべて磁北を指向している。
7. 遺構図中の網点部は焼土範囲をあらわす。
8. 土器実測図においては、土師器：断面白抜き、須恵器・灰釉陶器：断面塗りつぶしとした。
9. 遺物および遺構の記述において、古代の時期区分や用語などについては下記文献に準拠した。  
小平和夫 1990「第5節 古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内1-総論編』  
(財)長野県埋蔵文化財センター
10. 本調査で得られた遺物および調査の記録類はすべて松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館が収蔵している。  
松本市立考古博物館 〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL：0263-86-4710 FAX：0263-86-9189

# 目 次

例言	III 調査の概要
目次	1. 調査結果 ..... 5
I はじめに	2. 基本層序 ..... 5
1. 調査に至る経緯 ..... 3	3. 検出遺構 ..... 6
2. 調査体制 ..... 3	4. 出土遺物 ..... 7
II 遺跡の位置と環境 ..... 4	IV 小 結 ..... 7
挿図目次	表目次
第1図 調査地の位置 (1/50,000) ..... 3	第1表 旧射的場西遺跡IV 住居址一覧 ..... 8
第2図 周辺の遺跡分布 (1/25,000) ..... 4	第2表 旧射的場西遺跡IV 土坑一覧 ..... 8
第3図 調査区の位置 (1/2,500) ..... 4	第3表 旧射的場西遺跡IV ピット一覧 ..... 8
第4図 旧射的場西遺跡IV 遺構分布図 (1/200) ..... 5	第4表 旧射的場西遺跡IV 実測図掲載金属器 属性一覧 ..... 9
第5図 旧射的場西遺跡IV 基本層序 ..... 5	第5表 旧射的場西遺跡IV 実測図掲載土器 属性一覧 ..... 9
第6図 旧射的場西遺跡IV 遺構図(1) ..... 10	写真目次
第7図 旧射的場西遺跡IV 遺構図(2) ..... 11	写真図版1 ..... 13
第8図 旧射的場西遺跡IV 土器・金属器 ..... 12	写真図版2 ..... 14

# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯

旧射的場西遺跡は、かつて長野県市町村別遺跡一覧表および長野県史において「旧射的場面」とされてきたものである。1989年の第1次調査時に「旧射的場西」と改称されたものの、名称の不適切さが指摘されつつ現在に至っている。そのような中、田辺製菓株式会社による事務所建設工事に関わる埋蔵文化財の保護について照会があった。事業地は旧射的場西遺跡の東側に近接していたため、事業者と協議の上、試掘調査を実施し埋蔵文化財の有無を確認することとなった。試掘調査は1998年2月25日～3月5日に実施され、時期不詳であるが土坑、ピット、溝などの遺構および、奈良・平安時代遺物の出土が確認された。この結果を踏まえた上で再度遺跡の保護協議を行い、埋蔵文化財が破壊される可能性のある範囲について、発掘調査による記録保存を図ることとなった。1998年4月7日、田辺製菓株式会社と松本市との間で発掘調査業務の委託契約が締結され、松本市教育委員会が発掘調査および報告書の作成を実施することとなった。現地での発掘調査は1998年4月8日～4月30日に実施し、その後継続して本報告書の作成を行った。

## 2. 調査体制

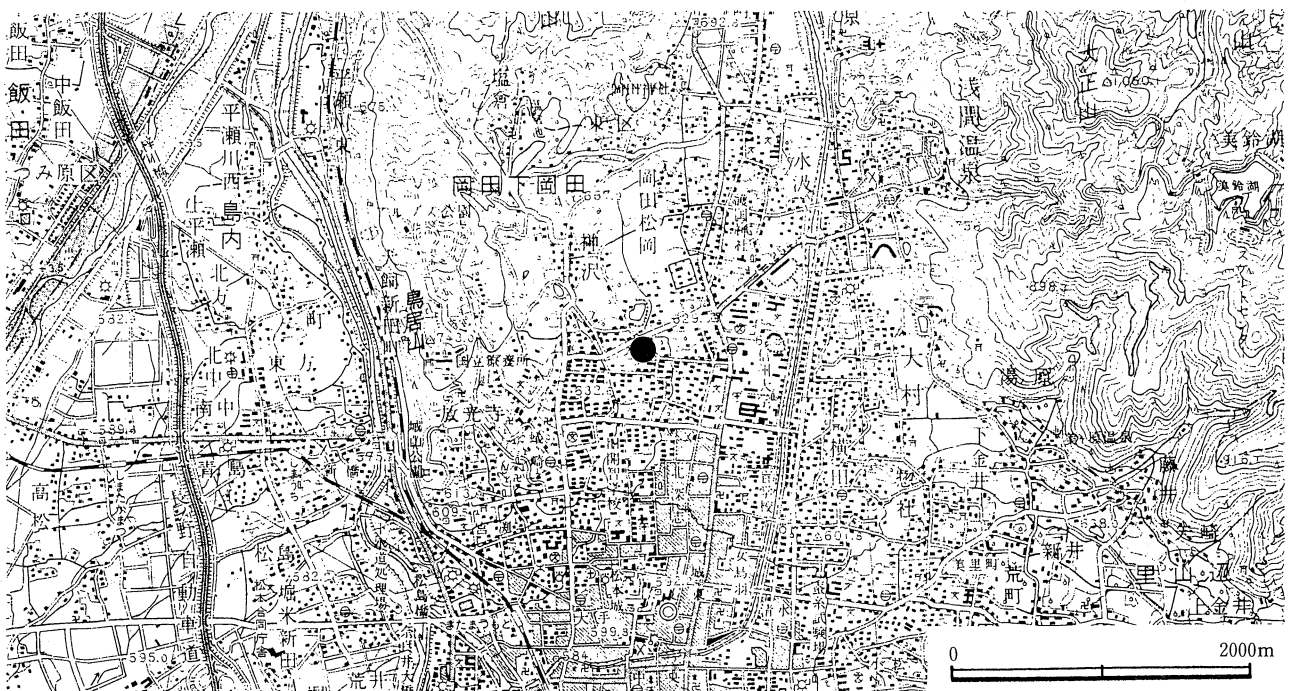
調査団長 松本市教育長 守屋立秋（～平成10.6.30）、舟田智理（7.1～10.15）、竹淵公章（11.1～）

調査担当者 荒木 龍、太田圭郁

調査員 今村 克、森 義直、松尾明恵

協力者 内田和子、岡村行夫、開嶋八重子、久保田登子、竹平悦子、田中一雄、中村恵子、林 和子、藤井源吾、藤井道明、布山 洋、宮田美智子、百瀬二三子、横山真理

事務局 木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、久保田 剛、近藤 潔、上条まゆみ



第1図 調査地の位置（点部：旧射的場西遺跡）

## II 遺跡の位置と環境

旧射的場西遺跡は松本市域の北部にあたる、沢村地区に所在する。当地一帯は古くより遺跡として知られており、鳥居龍蔵、両角守一、森本六爾氏などの研究者が訪れた記録がある。これまでに本遺跡の緊急発掘調査は二次に亘って実施されており、古墳時代から平安時代を中心とする集落遺跡であることが確認されていた他、明確な遺構に伴う状況ではないものの、縄紋時代早期末～前期初頭の土器や、同時期に帰属すると考えられる石器等の出土が確認されていた。

松本市域はフォッサマグナ地帯の北部に位置し、新第三紀層と貫入火成岩類および火山岩類より構成される部分と、第四紀洪積世の島弧変動によって生じた構造盆地および、その周辺部より構成される。本遺跡を北西端とする旧松本市街地は三方を新第三紀層に囲まれ、南方に開けた景観を呈する。

調査地点は城山から芥子望主へと延びる筑摩山地の東麓に位置する、女鳥羽川により形成された段丘面上にあたる。本遺跡付近を含む旧松本市街地の堆積物は主として、緑色火山岩類、安山岩、石英閃緑岩を主体とする薄川系統のもの、ヒン岩、砂岩、溶結凝灰岩（ガラス質安山岩）を主体とする女鳥羽川系統のものにより構成されている。女鳥羽川により形成された段丘面は大まかに三面あると考えられており、調査地点はそのうちの第2段丘面にあたる。第1・第2段丘面の土壌は、筑摩山地の新第三紀層およびその上に載るロームを二次堆積物として含む、崖錐性堆積物が相当量含まれる。

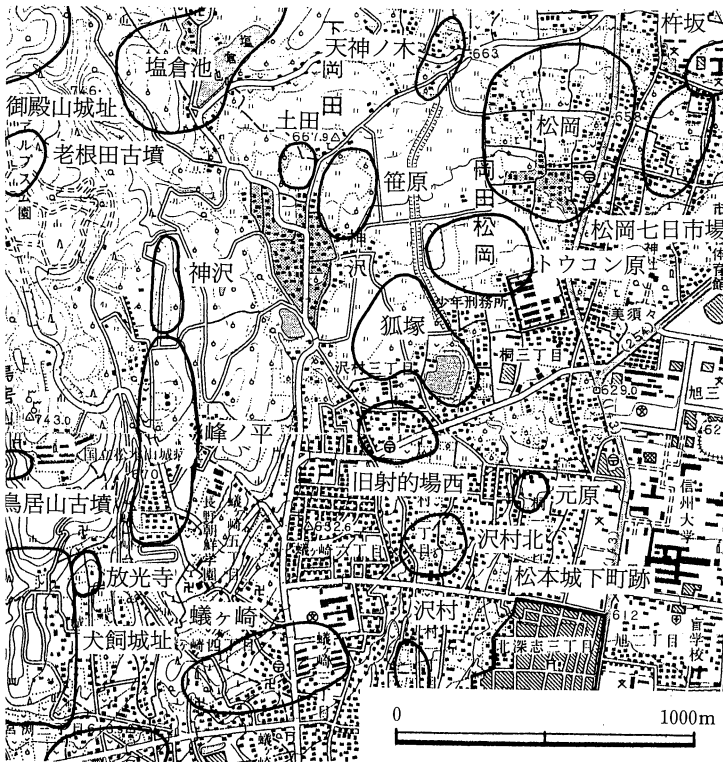
これまでの松本市域北部の発掘調査の結果から女鳥羽川はかなりの暴れ川であったことが判明しており、平安時代後期には大洪水を引き起こしたとも考えられている。

### 引用・参考文献

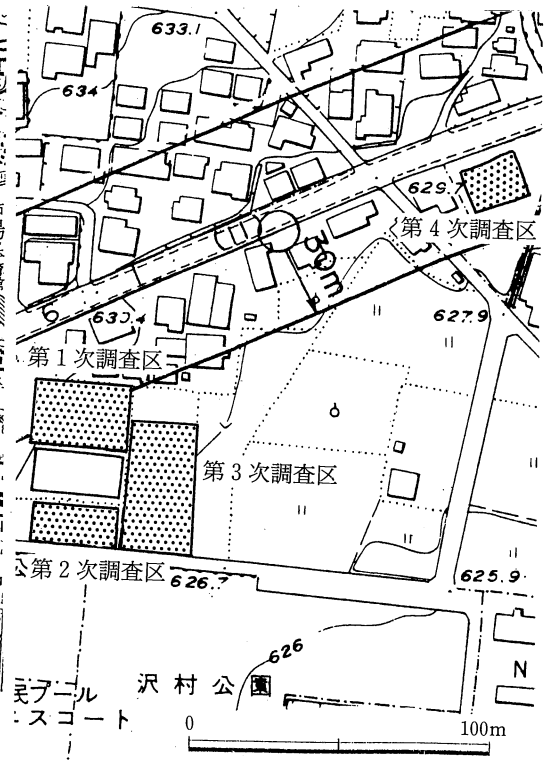
新谷和孝編 1989『松本市沢村旧射的場西遺跡』松本市教育委員会

森 義直 1998「II-1. 遺跡の立地と地形・地質」『蟻ヶ崎遺跡』松本市教育委員会

松本市 1996『松本市史 第1巻 自然編』



第2図 周辺の遺跡分布



第3図 調査区的位置

### III 調査の概要

#### 1. 調査結果

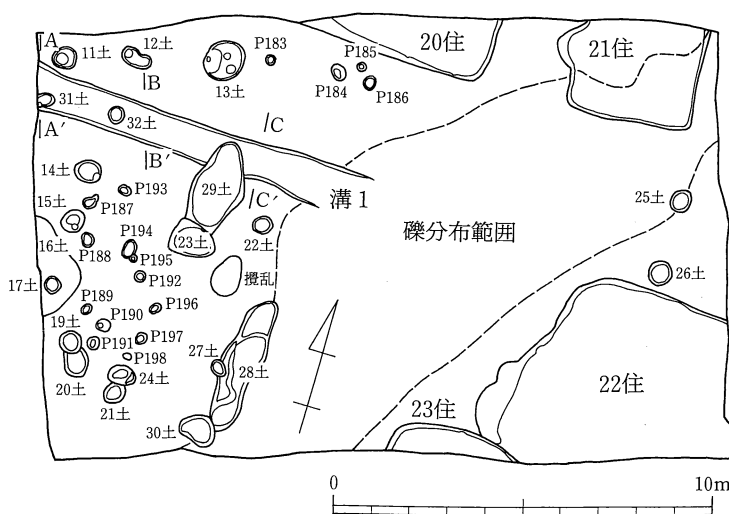
本調査では試掘調査時の所見に基き、遺構検出面までの表土除去および埋戻し作業には重機を用い、遺構検出・掘削作業は人力で行った。また、遺構および遺物出土状況などの測量記録は、磁北方向に沿った任意の3m方眼を設定して行った。

次節において詳しく触れるが、遺構検出面は第4層と、第5層および第6層との層理面であり、同面において調査区内を北東から南西に斜走する礫分布範囲を確認した。包含されていた礫の淘汰状況が劣悪であったことから、洪水性の堆積状況が想定される。先にも触れたように当地一帯では平安時代後期に、女鳥羽川の氾濫による大洪水があったと考えられている。本調査において確認された礫分布範囲も規模は小さいものの女鳥羽川の活動に関連するものとも考えられる。

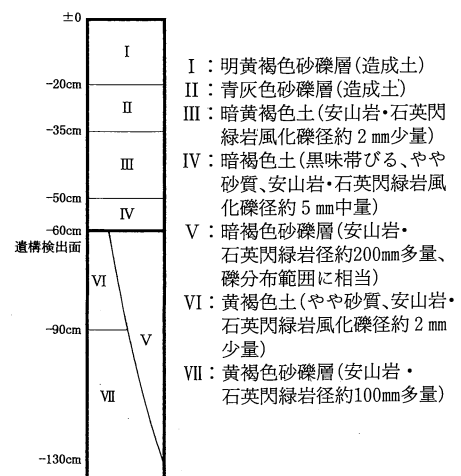
検出した遺構としては、竪穴住居址4棟、土坑21基、ピット16基、溝1条などがあり、これらは伴出した遺物から古代1期～8期に帰属するものと考えられる。また遺構には伴わなかったものの、縄紋時代に帰属すると考えられる石器も出土が確認された。

#### 2. 基本層序

調査区内の基本的な土層は7層が確認された。第1層および第2層は、碎石を多量に含む造成土である。かつて駐車場として利用する際に造成が行われ、第3層を削平しているものと考えられる。第3層は安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む暗黄褐色土層であり、層厚約15cmを測る。第4層はやや砂質を呈し黒味を帯びる暗褐色土層であり、安山岩および石英閃緑岩の風化礫を中量含み、層厚約10cmを測る。なお第4層と、第5層および第6層との層理面が遺構検出面である。第5層は安山岩および石英閃緑岩の巨礫を多量に含む暗褐色砂礫層であり、礫分布範囲に相当する。層厚約70cmを測る。第6層はやや砂質を呈し、安山岩および石英閃緑岩の風化礫を少量含む黄褐色土層であり、層厚約30cmを測る。第7層は安山岩および石英閃緑岩の巨礫を多量に含む黄褐色砂礫層であり、層厚は不明である。基本的には基盤が黄褐色系統の色調であるのに対し遺構覆土は暗褐色系統の色調であった。



第4図 旧射的場西遺跡Ⅳ 遺構分布図



第5図 旧射的場西遺跡Ⅳ 基本層序

### 3. 検出遺構

---

#### ① 竪穴住居址

旧射的場西遺跡IVでは古代1期～8期に帰属すると考えられる竪穴住居址4棟を検出した。ここではそれぞれの堆積状況、住居址内施設、遺物出土状況などについて概観しておきたい。

##### 第20号住居址

調査区北東部において検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは南東部約1/4程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は7層を確認した。住居址内施設としては、周溝およびピット7基を確認したが支柱穴は不明である。遺物は土師器、須恵器が出土した。これらの土器様相から本住居址は古代1期以前のものと考えられる。

##### 第21号住居址

調査区北東部において検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは南半部約1/2程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は5層を確認した。第1層中では安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が70点以上出土した。住居址内施設としては竈およびピットを確認した。竈は西壁中央部に認められ、安山岩および石英閃緑岩礫を用いた石組を検出した他、底部において焼土面および石組を抜き取ったと考えられるピットを確認した。ピットは住居址床面において他に5基を確認したが、支柱穴は不明である。

なお本住居址は礫分布範囲を切って構築されており、住居址床面においては北東より南西に向かって蛇行する礫分布範囲の境界線を確認した。遺物は土師器などが出土した。これらの土器様相から本住居址は古代4～5期のものと考えられる。

##### 第22号住居址

調査区南東部において第23号住居址に切られる状況で検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは北東部約5/8程度であり、形態、規模共に不明な部分が多い。遺構覆土は11層を確認した。第1層および第2層においては、安山岩および石英閃緑岩の拳大から人頭大の礫が100点以上出土した。住居址内施設としては周溝およびピットを確認した。第4号ピットおよび第9号ピットはその配置、形態、規模などから支柱穴と考えられる。西壁部にはテラス状の段やピットおよび遺物が集中して認められ、石組および焼土は確認しなかったものの竈であった可能性が高い。遺物は土師器、須恵器、棒状鉄製品、筒状銅製品などが出土した。これらの土器様相から、本住居址は古代2～3期のものと考えられる。なお、第23号住居址からの混入品と考えられる土器も数点認められた。

##### 第23号住居址

調査区南東部において第22号住居址を切る状況で検出した。調査区域外にかかるため調査し得たのは北西部約1/4程度であり、形態、規模など不明な点が多い。遺構覆土は4層を確認した。第22号住居址覆土中においては礫が多量に認められたのに対して、本住居址においてはほとんど認められなかった。住居址内施設としてはピット3基が認められたが支柱穴は不明である。遺物はほとんど出土していないが、土師器杯（黒色土器A）、須恵器杯が認められ、これらの土器様相から本住居址は古代6～8期のものと考えられる。

#### ② 土坑

第25号土坑および第26号土坑を調査区東半部において検出した他は調査区西半部に集中する状況で、計21基を検出した。調査区中央部を北東から南西に斜走する礫分布範囲を避けて構築された状況が伺える。時期の推定し得る遺物が出土した土坑としては、第26号土坑および第29号土坑がある。第26号土坑では須恵器杯が出土しており、古代5～6期のものと考えられる。第29号土坑では須恵器杯、須恵器甕が出土しており、古代2～3期のものと考えられる。

### ③ ピット

調査区西半部に集中する状況で計16基を検出した。土坑と同様、礫分布範囲を避けて構築された状況が伺える。遺物が伴うものは少なく、時期は不明である。しかし土坑およびピットは分布が集中することから、何らかの構造物を構成していた可能性が高い。

### ④ 溝、礫分布範囲

調査区北西部において東西に走る第1号溝および、調査区中央部において北東から南西に斜走する礫分布範囲を検出した。第1号溝は礫分布範囲を切ったところで消滅している。第1号溝、礫分布範囲共に遺物はほとんど出土していないものの、第1号溝は第29号土坑に切られることから古代2～3期以前、礫分布範囲は第1号溝に切られることから古代2～3期以前で、第1号溝に先行するものと考えられる。

## 4. 出土遺物

### ① 土器

主として住居址覆土などより、古代1期～8期に帰属すると考えられる遺物が出土している。ここでは各住居址単位土器群について概観しておきたい。

#### 第20号住居址土器群

土師器杯、小型甕、須恵器高杯、円面硯などより構成され、古代1期以前のものと考えられる。

#### 第21号住居址土器群

土師器小型甕、小型甕A、甌などより構成され、古代4～5期のものと考えられる。甌（No.8）は取手部が環状を呈する特殊な形態のもので、時期も不明である。

#### 第22号住居址土器群

土師器杯、高杯、鉢、甕、須恵器杯蓋B、杯、杯A、高杯、礎、円面硯、壺、短頸壺、甕などにより構成され、古代2～3期のものと考えられる。

#### 第23号住居址土器群

土師器杯（黒色土器A）、須恵器杯などより構成され、古代6～8期のものと考えられる。

### ② 石器

原位置を遊離したと考えられる状況で、縄紋時代に帰属すると考えられる石器が出土している。石材には黒耀岩、チャート、輝緑凝灰岩、砂岩などが用いられており、打製斧形石器、礫石器類などが認められた。

### ③ 金属器

第21号住居址において鉄製紡錘車2点が出土した他、第22号住居址において棒状鉄製品、筒状銅製品各1点がそれぞれ出土している。

## IV 小結

旧射的場西遺跡第4次調査では、古代1期～8期に帰属すると考えられる集落および、それに先行すると考えられる礫分布範囲を確認した。第1次～第3次調査においてもほぼ同時期の集落が確認されており、当該期集落の広がりを確認したと同時に、集落の占地に関する重要な成果をあげたといえる。遺構密度という点では集落の中心部というよりはむしろ外縁部と考えられるが、円面硯や筒状銅製品の出土は注意が必要であろう。また、これまでの調査においても確認されていたものであるが、縄紋時代遺物の出土は本遺跡より北西に伸びる台地上に当該期集落が存在する可能性を濃厚なものにしたと考えられる。

第1表 旧射の場西遺跡Ⅳ 住居址一覧

法量は面積が㎡単位である他はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長×短×深	床面積	主軸方位	カマド	主柱穴	備考	時期
20	調査区北部	隅丸方形	<480>×<176>×36	<5.1>	N-2°-E	不明		区域外にかかる。	1期以前
21	調査区北東部	隅丸方形	380×(328)×20	(9.3)	N-3°-W	西壁中央		区域外にかかる。	4~5期
22	調査区南東部	隅丸方形	660×624×36	(32.8)	N-15°-E	不明	P4、9。径60~86。深32。	区域外にかかる。	2~3期
23	調査区南東部	隅丸方形	<320>×<80>×40	<1.4>	不明	不明		区域外にかかる。	6~8期

第2表 旧射の場西遺跡Ⅳ 土坑一覧

法量はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長軸×短軸×深	備考	時期
11	調査区北西部	楕円形	44×58×20		
12	調査区北西部	不整楕円形	80×46×30		
13	調査区北西部	円形	112×102×40		
14	調査区北西部	楕円形	76×62×38		
15	調査区北西部	隅丸方形	68×58×36		
16	調査区南西部	不明	266×104×	未完掘。区域外にかかる。土17に切られる。風倒木痕か。	
17	調査区南西部	隅丸方形	44×42×8	土16を切る。	
19	調査区南西部	円形	60×60×16	土20を切る。	
20	調査区南西部	隅丸方形	(80)×62×16	土19に切られる。	
21	調査区南西部	楕円形	62×54×22	土24に切られる。	
22	調査区南西部	円形	51×46×16		
23	調査区南西部	不整楕円形	122×92×24	土29を切る。	
24	調査区南西部	楕円形	76×52×20	土21を切る。	
25	調査区北東部	隅丸方形	64×52×20		
26	調査区南東部	円形	68×64×24		5~6期
27	調査区南西部	楕円形	48×38×8	土28を切る。	
28	調査区南西部	不整長方形	380×104×44	土27・30に切られる。	
29	調査区北西部	不整楕円形	272×140×40	溝1を切る。土23に切られる。	2~3期
30	調査区南西部	不整楕円形	100×78×28	土28を切る。	
31	調査区北西部	楕円形	52×36×6	溝1内。区域外にかかる。	
32	調査区北西部	円形	48×44×22	溝1内。	

第3表 旧射の場西遺跡Ⅳ ピット一覧

法量はすべてcm単位。( )は推定値、< >は残存値、深さは検出面からの最大値を示す。

No.	位置	平面形	長軸×短軸×深	備考	時期
183	調査区北西部	円形	24×23×9		
184	調査区北西部	楕円形	49×30×16		
185	調査区北西部	円形	26×23×14		
186	調査区北西部	楕円形	39×32×16		
187	調査区北西部	不整楕円形	49×31×7		
188	調査区北西部	不整楕円形	42×31×12		
189	調査区南西部	楕円形	30×25×8		
190	調査区南西部	円形	40×34×13		
191	調査区南西部	円形	37×34×14		
192	調査区南西部	楕円形	32×24×12		
193	調査区北西部	楕円形	<33>×<29>×6	試掘トレンチ内。	
194	調査区南西部	楕円形	<53>×<34>×5	試掘トレンチ内。ピット195に切られる。	
195	調査区南西部	円形	<22>×<20>×6	試掘トレンチ内。ピット194を切る。	
196	調査区南西部	円形	<32>×<30>×6	試掘トレンチ内。	
197	調査区南西部	楕円形	<33>×<28>×13	試掘トレンチ内。	
198	調査区南西部	楕円形	<24>×<18>×12	試掘トレンチ内。	



第4表 旧射の場西遺跡Ⅳ 実測図掲載金属器属性一覧

質量は重量がg単位である他はmm単位。

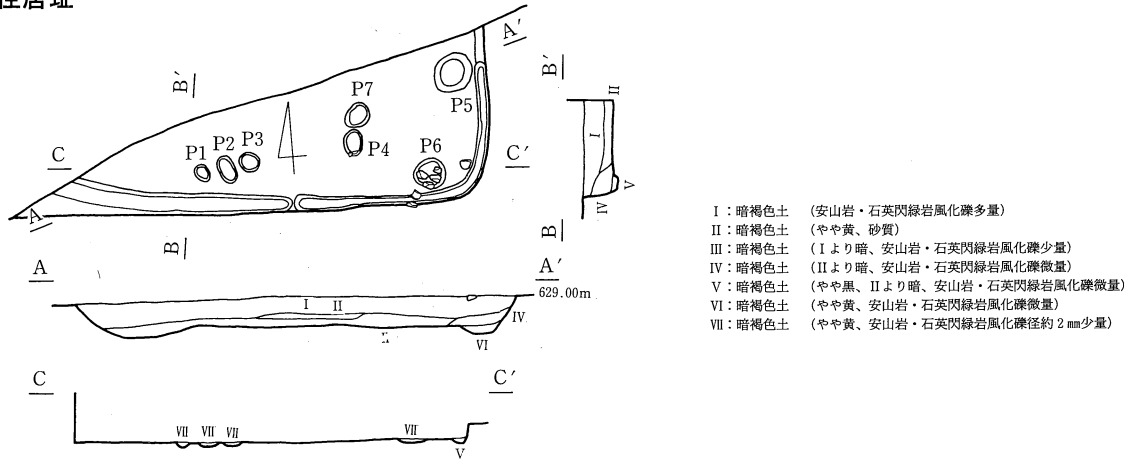
No	出土遺構	器種	素材	重量	備考
42	21住	紡錘車	鉄製	31.3	紡輪部。紡輪径51.4、紡輪厚5.2、接続部軸径5.2。43と同一個体か。
43	21住	紡錘車	鉄製	6.2	紡軸部。残存紡軸長97.9、最大紡軸径5.0、最小紡軸径2.3。42と同一個体か。
44	22住	棒状鉄製品	鉄製	5.2	断面長方形状を呈する棒状鉄製品。残存最大長50.9、断面最大長6.5、断面最小長4.6。
45	22住	筒状銅製品	銅製	0.4	断面円もしくは楕円形状を呈する筒状銅製品。最大厚0.9。責金具か。

第5表 旧射の場西遺跡Ⅳ 実測図掲載土器属性一覧

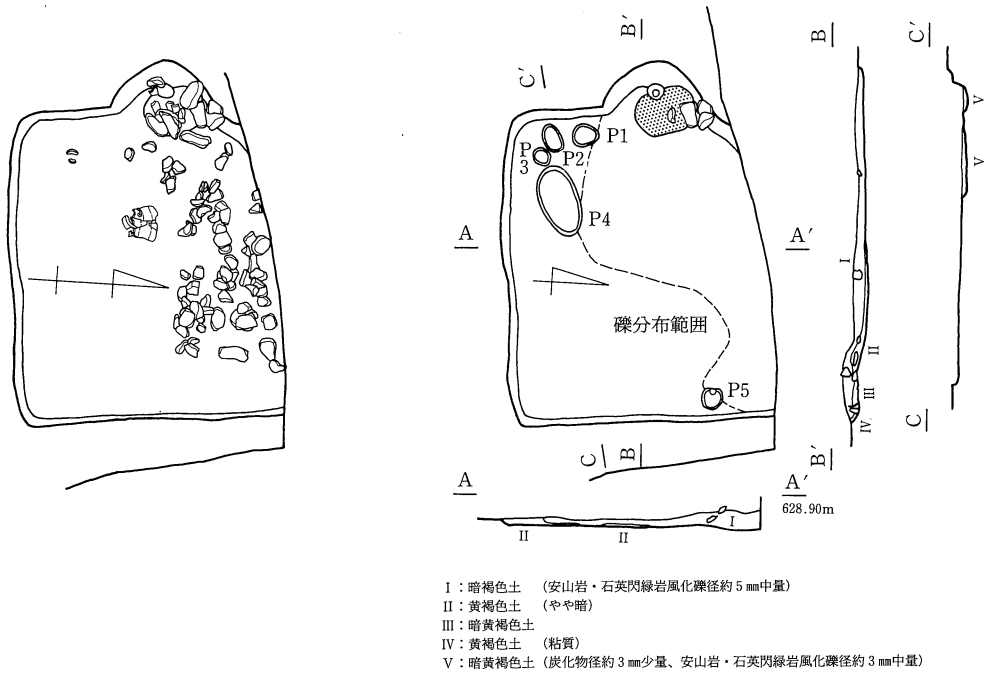
( ) は反転復元値を示す。— は不明かもしくは該当しないことを示す。

No	出土遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存度		成形・調整・形態の特徴等	備考
							口縁	底部		
1	20住	土師器	杯	(17.2)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ	
2	20住	須恵器	高杯	—	(10.2)	—	—	1/4	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ	
3	20住	土師器	小型甕	—	(7.6)	—	—	1/2	ハケメ 内面・底部ナデ	
4	20住	須恵器	不明	—	—	—	—	—	タタキ目 内面当具痕	
5	20住	須恵器	円面硯	—	(21.8)	—	—	1/24	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ	
6	21住	土師器	小型甕	(12.0)	(7.2)	(11.0)	一部	一部欠	縦ハケメ摩滅 内面カキメ 横ハケメ・ナデ	
7	21住	土師器	小型甕A	—	—	—	—	—	ナデ 内面ナデ指圧痕	
8	21住	土師器	甕	24.7	15.2	24.7	一部欠	—	把手片方剥離欠損 内外面摩滅著しい	
9	22住	須恵器	蓋B	(14.6)	—	—	1/6	—	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ 自然釉付着	
10	22住	須恵器	杯A	—	(7.0)	—	—	1/4	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
11	22住	須恵器	杯?	—	(6.6)	—	—	1/4	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
12	22住	須恵器	杯A	(12.0)	(7.0)	(4.2)	1/12	1/4	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
13	22住	須恵器	杯	(14.2)	(7.0)	(3.8)	1/6	1/2	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
14	22住	土師器	杯	—	(7.0)	—	—	1/3	ロクロナデ 内面黒色処理後ミガキ 底部回転糸切	内黒 23住混入
15	22住	須恵器	杯	—	(8.6)	—	—	1/8	内外面ロクロナデ 付高台後ナデ	23住混入
16	22住	須恵器	杯	—	(7.0)	—	—	1/6	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
17	22住	須恵器	杯A	—	(7.8)	—	—	1/3	内外面ロクロナデ 底部ヘラケズリ	
18	22住	須恵器	杯A	(13.8)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ	
19	22住	須恵器	甕	—	(4.2)	—	—	1/3	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	
20	22住	土師器	高杯	—	—	—	—	—	内外面ロクロナデ	
21	22住	須恵器	高杯	—	—	—	—	—	ロクロナデ後回転ヘラケズリ 内面ロクロナデ	
22	22住	須恵器	高杯	—	(8.0)	—	—	1/6	ロクロナデ 内面ナデ 端部ヨコナデ	
23	22住	須恵器	高杯	—	(10.6)	—	—	1/6	ロクロナデ 内面ナデ 端部ヨコナデ	
24	22住	須恵器	円面硯	—	(18.6)	—	—	一部	内外面ロクロナデ 端部ヨコナデ	
25	22住	須恵器	鉢	(14.6)	—	—	1/8	—	ロクロナデ 内面ナデ	
26	22住	土師器	甕?	—	(8.0)	—	—	1/5	ハケメ摩滅 内面ハケメ 底部ナデ	
27	22住	土師器	甕	(15.6)	—	—	一部	—	内外面ハケメ 器面摩滅	
28	22住	須恵器	壺?	—	—	—	—	—	タタキ 内面ナデ 自然釉付着 横瓶か	
29	22住	須恵器	短頸壺	—	(9.2)	—	—	3/4	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後ナデ	
30	22住	須恵器	甕	—	—	—	—	1/2	タタキ目摩滅 内面ナデ 底部ナデ	
31	22住	須恵器	甕?	(18.6)	—	—	一部	—	ナデ 内面ナデ	
32	22住	須恵器	甕	(20.6)	—	—	1/6	—	ロクロナデ 内面ナデ後ハケメ 端部ヨコナデ	
33	22住	須恵器	甕	(27.8)	—	—	一部	—	ロクロナデ 内面ナデ	
34	22住	土師器	甕	(20.0)	—	—	1/8	—	ハケメ 内面ハケメ・ナデ	
35	土坑26	須恵器	杯B	—	(6.2)	—	—	1/4	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	
36	土坑29	須恵器	杯	(13.6)	(7.2)	(4.5)	1/8	完	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後ナデ	
37	土坑29	須恵器	甕C	(20.4)	—	—	1/8	—	ロクロナデ・タタキ目 内面ロクロナデ	
38	検出面	須恵器	杯B	—	(8.8)	—	—	1/2	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	
39	検出面	須恵器	杯A	—	(6.9)	—	—	1/5	内外面ロクロナデ 底部ナデ	
40	検出面	須恵器	横瓶?	(12.0)	—	—	1/8	—	内外面ロクロナデ	
41	検出面	須恵器	横瓶?	(15.0)	—	—	1/10	—	内外面ロクロナデ 自然釉付着	

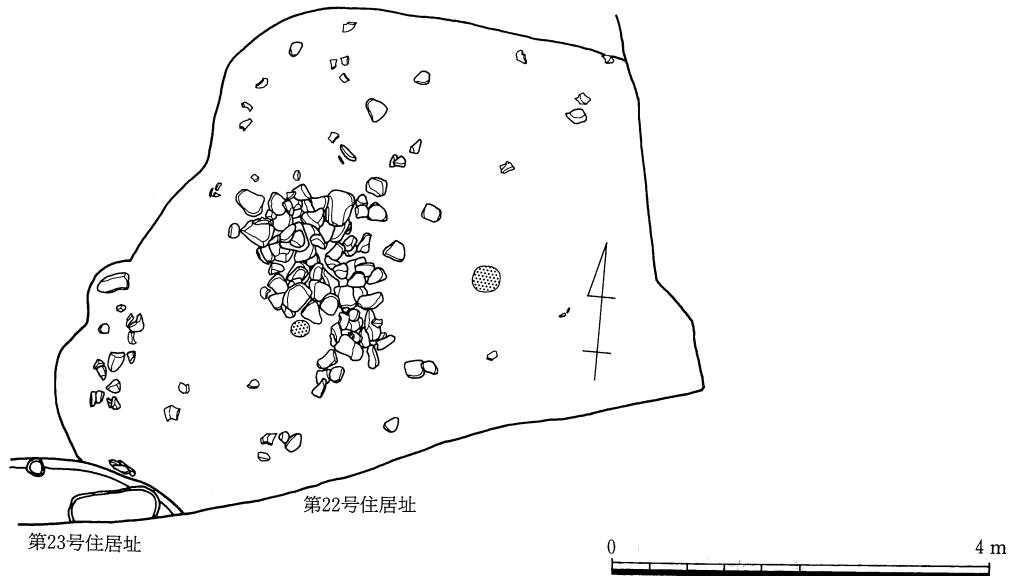
第20号住居址



第21号住居址  
同遺物出土状況

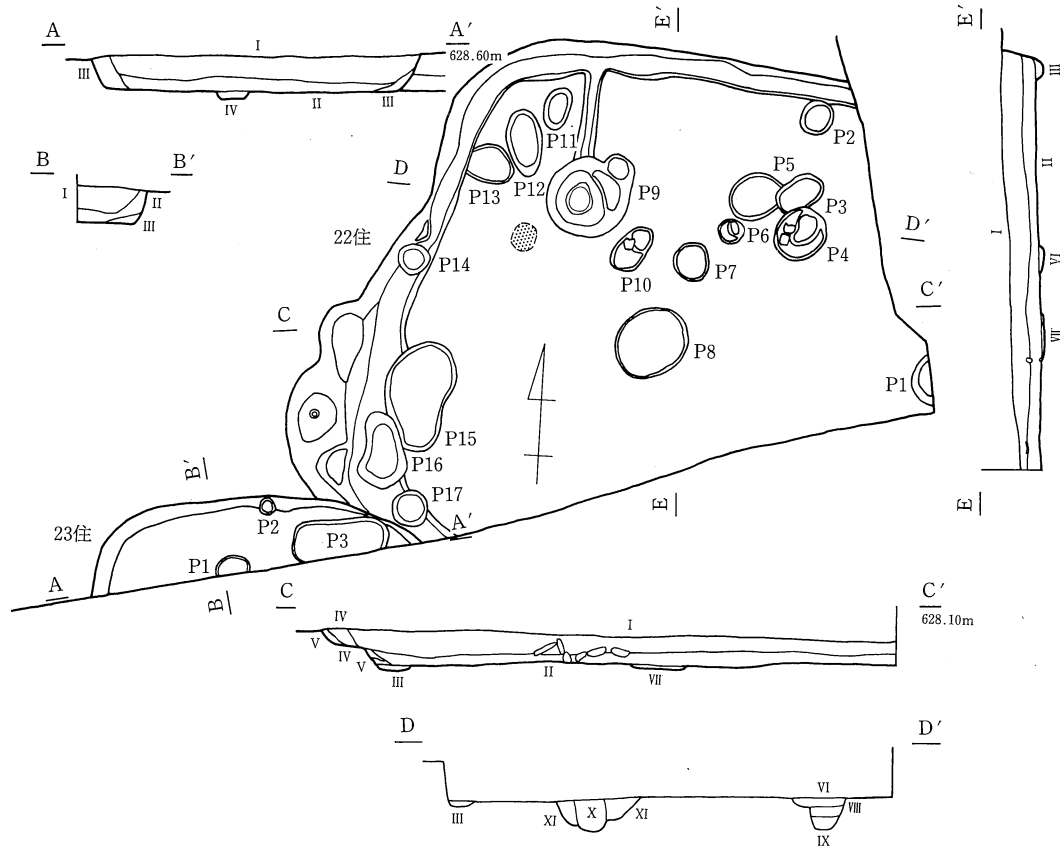


第22号住居址遺物出土状況



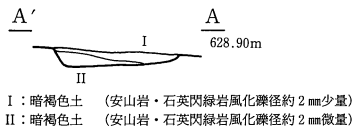
第6図 旧射の場西遺跡Ⅳ 遺構図(1)

第22・23号住居址

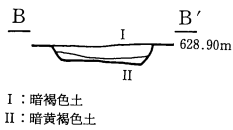


- |  |   |
|--|---|
| <p>第22号住居址</p> <p>I：暗褐色土 (安山岩・石英閃緑岩風化礫径約5mm多量)</p> <p>II：暗褐色土 (Iより暗、安山岩・石英閃緑岩風化礫径約2mm少量)</p> <p>III：暗褐色土 (やや黄)</p> <p>IV：暗褐色土 (わずかに黄、黄褐色土粒径約3mm少量)</p> <p>V：暗褐色土 (やや黄、黄褐色土粒径約5mm少量)</p> <p>VI：暗褐色土 (黄褐色土粒径約5mm多量、安山岩・石英閃緑岩風化礫径約5mm多量)</p> <p>VII：暗褐色土</p> <p>VIII：暗褐色土 (炭化物径約3mm少量、黄褐色土粒径約2mm少量)</p> | <p>IX：暗褐色土 (VIIより明)</p> <p>X：暗褐色土 (安山岩・石英閃緑岩礫径約100mm中量)</p> <p>XI：暗褐色土 (やや黄、安山岩・石英閃緑岩礫径約100mm中量)</p> <p>第23号住居址</p> <p>I：暗褐色土 (わずかに黄、安山岩・石英閃緑岩風化礫径約5mm多量)</p> <p>II：暗褐色土 (やや暗黄、安山岩・石英閃緑岩風化礫径約2mm中量)</p> <p>III：暗褐色土</p> <p>IV：暗黄褐色土</p> |
|--|---|

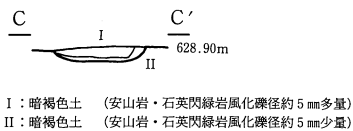
第1号溝A



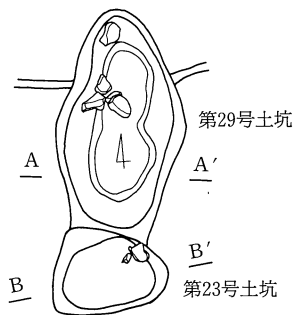
第1号溝B



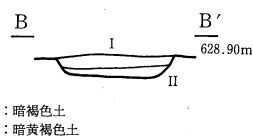
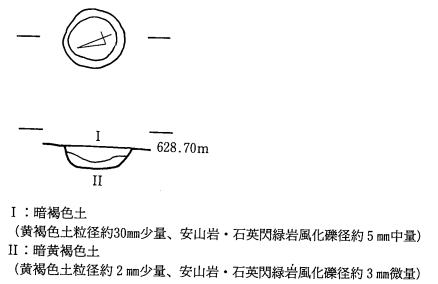
第1号溝C



第23・29号土坑



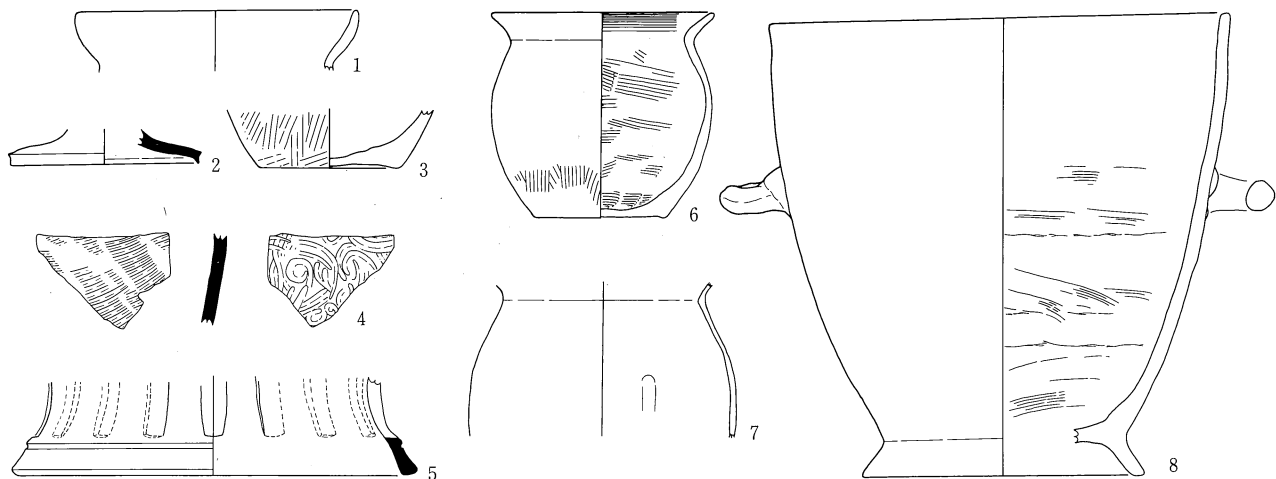
第26号土坑



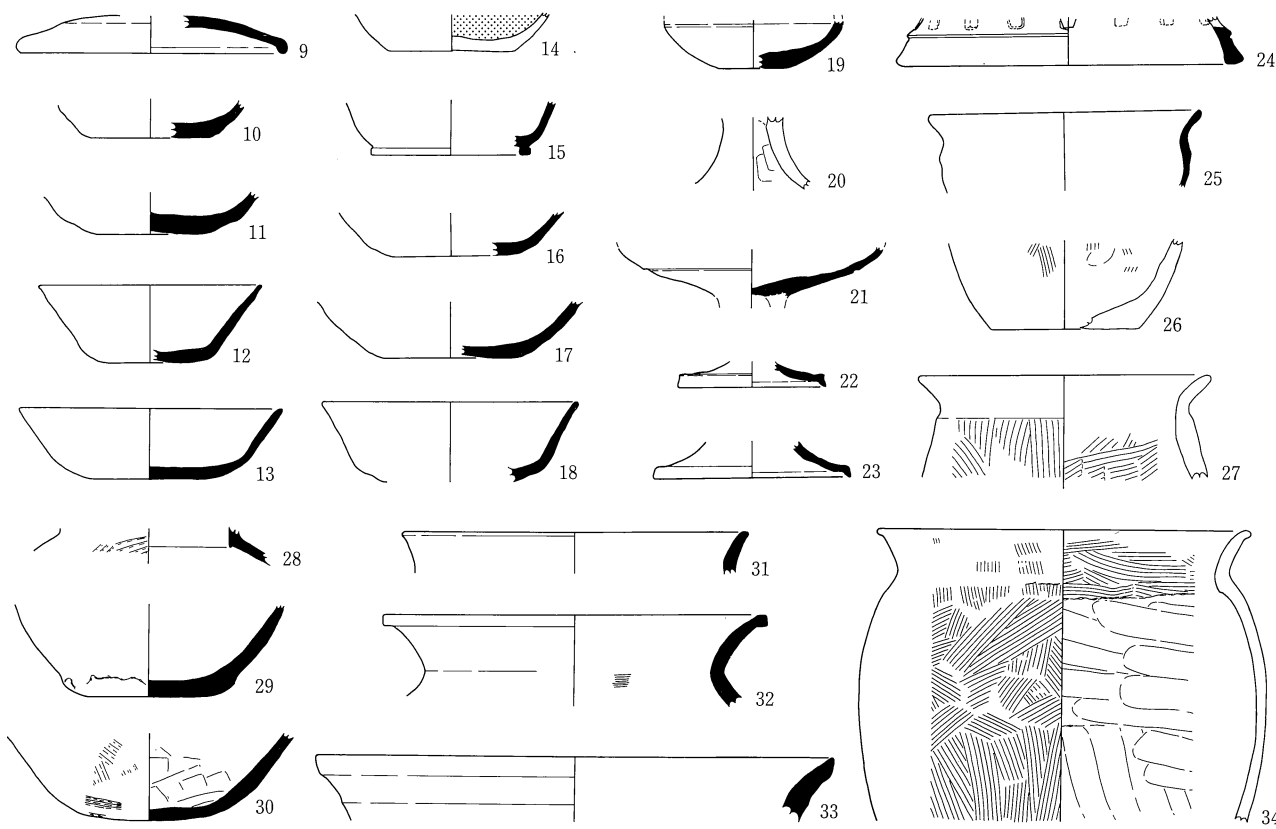
第7図 旧射の場西遺跡Ⅳ 遺構図(2)

第20号住居址 (1~5)

第21号住居址 (6~8)



第22号住居址 (9~34)

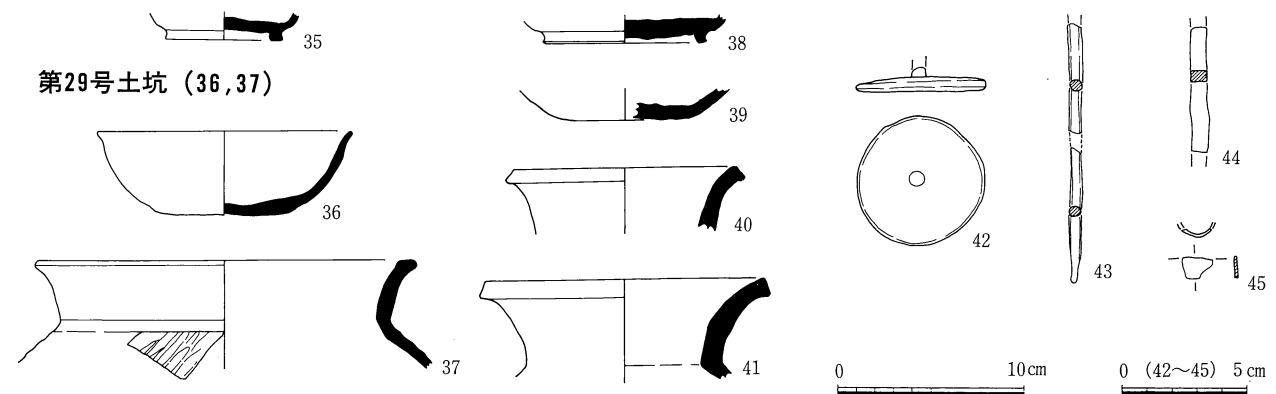


第26号土坑 (35)

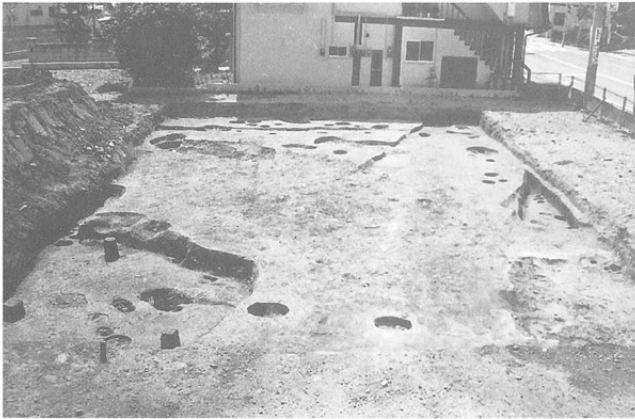
検出面 (38~41)

第21号住居址 (42,43) 第22号住居址 (44,45)

第29号土坑 (36,37)



第8图 旧射の場西遺跡Ⅳ 土器・金属器



調査区全景 (東より)



第20号住居址 完掘状況 (東より)



第21号住居址 遺物出土状況 (東より)



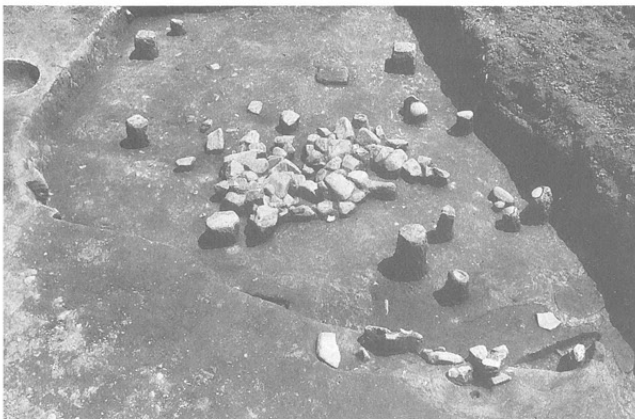
第21号住居址 完掘状況 (東より)



第22号住居址 遺物出土状況 (南より)



第22号住居址 完掘状況 (南より)



同上 (西より)

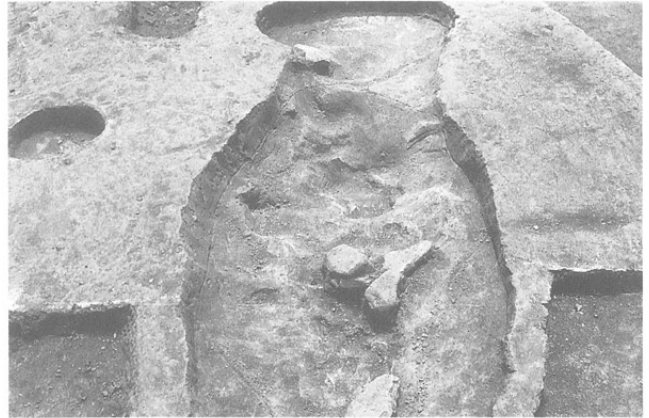


第23号住居址 完掘状況 (北より)

写真図版 2



調査区西半完掘状況（南東より）



第29号土坑 遺物出土状況（北より）



第1号溝 完掘状況（南東より）



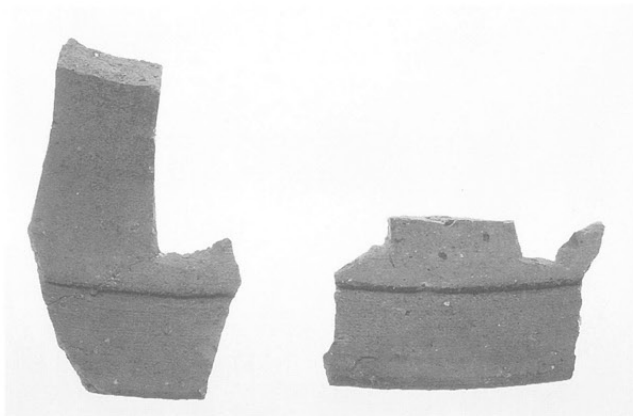
第21号住居址甑 出土状況（西より）



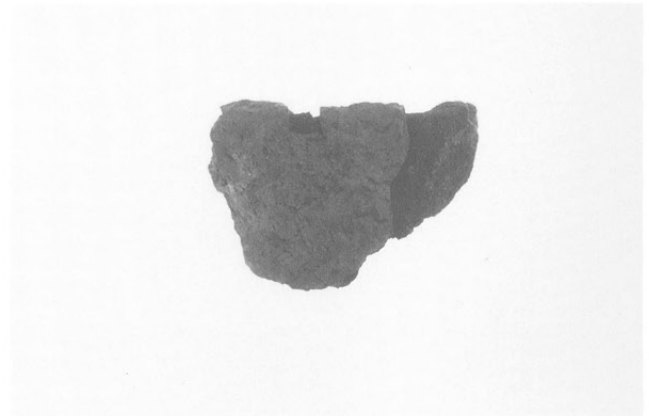
第21号住居址出土甑



同左側面観



第20号住居址出土碗(左)・第22号住居址出土碗(右)



第22号住居址出土銅製品

長野県松本市 旧射的場西遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし きゅうしゃてきじょうにしせいせき きんきゅうはつくつちようさほうこくしよ							
書名	長野県松本市 旧射的場西遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.141							
編著者名	直井雅尚 田多井用章 太田圭郁							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号 (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	1999 (平成11) 年 3月31日 (平成10年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
きゅうしゃてきじょうにし 旧射的場西	まつもとし さわむら 松本市沢村 2丁目1849-1	20202	145	36度 15分 02秒	137度 58分 34秒	19980408～ 19980430 (実働16日)	215.7m <sup>2</sup>	民間開発事業 (宅地造成)
所収遺跡名	種別	主な時代 (A,B区)		主な遺構 (A,B区)		主な遺物 (A,B区)		特記事項
旧射的場西	集落跡	縄紋 古代 (古墳時代終末期～ 奈良・平安時代)		なし 竪穴住居址 4軒 土坑 21基 ピット 16基 溝 1条		石器(鍬形石器、斧形石器) 土師器 須恵器 金属器		古女鳥羽川の氾濫 に関連すると考え られる礫分布範囲 の周辺において、 古代1期～8期に 帰属すると考えら れる集落を検出。

松本市文化財調査報告No.141

長野県松本市

旧射的場西遺跡Ⅳ

緊急発掘調査報告書

発行日 平成11年3月26日

発行者 松本市教育委員会

〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 藤原印刷株式会社

〒390-0865 長野県松本市新橋7番21号

